

平成28年度学校給食地場産食材使用状況調査の結果について

○ 調査方法等

(1) 調査対象

県内公立小中学校の全ての学校給食施設 193施設

(2) 地場産食材使用率算出方法（食品数ベース）

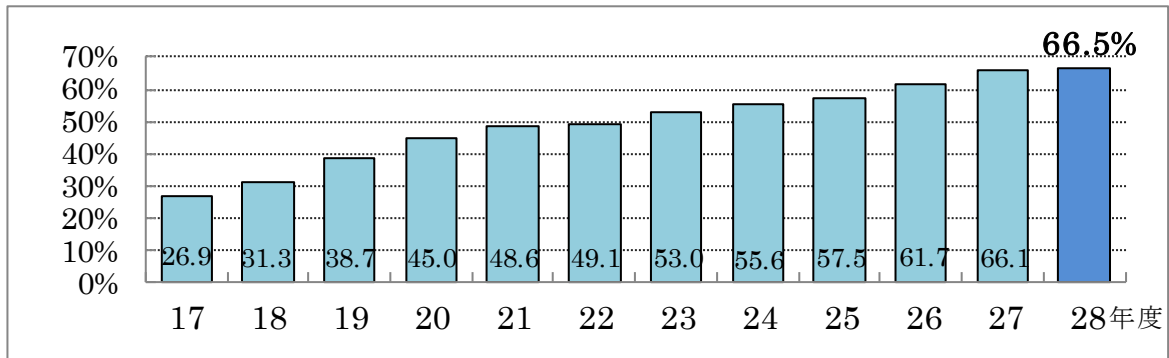
使用率（%）＝（山口県産食品数 ÷ 全使用食品数）× 100

(3) 調査期間

各学期において県教委が任意に指定した5日間（計15日間）

○ 調査結果の概要

(1) 地場産食材使用率 66.5%（対前年度比 0.4ポイント増）



(2) 食品分類別の使用率

	使用率 [前年度比 (ポイント)]		使用率 [前年度比 (ポイント)]
牛乳・乳製品	9.6% [+1]	その他野菜類	6.4% [-3]
穀類	9.2% [+6]	魚介類	6.3% [-3]
豆類	7.5% [+6]	緑黄色野菜類	5.7% [-4]
果実類	6.2% [-7]	きのこ類	5.5% [-1]
獣鳥肉類	7.7% [+1]	いも及びでんぷん類	3.5% [+0]

(3) 各市町における県産品の使用率

使用率	市町数	市町名
70%以上	9	宇部市、下松市、長門市、美祢市、山陽小野田市、周防大島町、田布施町、平生町、阿武町
70~50%	10	下関市、山口市、萩市、防府市、岩国市、光市、柳井市、周南市、和木町、上関町

(4) 市町の主な取組事例

市町名	取組事例等
柳井市	○柳井農林事務所やJ Aと連携し、学校給食協力会の農家の方に、育てやすく大量調理に向く野菜の品種を栽培してもらったことで、今回、安定的に供給されるようになった。
周防大島町	○J Aと電話等で連携を図り協力体制がより強化したため、県内産の食材の納品が増加した。 ○町内の農家の方々と情報交換の会議を持つことで、直接注文する回数が増加した。
田布施町	○旬の食材を知り、地域でとれる食材を使った献立の作成を工夫した。 ○給食で使用する予定の食材を、地元の農家(朝市会)に事前に情報提供するなどし、常に地元の農家の方と連携を図った。